

## 会 議 記 録

会議名称	第6回社会教育委員の会議
日 時	令和5年5月18日（木）午後1時02分～午後3時01分
場 所	東棟6階 教育委員会室
出席者	委員 塩練、小澤、荻上、南、檜枝、赤池、天野、内山、笹井 区側 生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、管理係長、学校開放担当係長、 社会教育推進担当係長（社会教育主事）、 教育連携担当係長（社会教育センター社会教育主事）、 社会教育センター社会教育主事、管理係主査
配付資料	<配布資料> 1 令和4年度第5回社会教育委員の会議 会議記録（案） 2 令和5年度社会教育関係団体への補助金支出について 3 第17期杉並区社会教育委員の会議 まとめ（案） <参考資料> 1 すぎなみ大人塾 2022 記録集 2 令和5年度すぎなみ大人塾・久我山～浜田山コースチラシ 3 令和5年度杉並区立郷土博物館「年中行事だより」 4 企画展「淡島雅吉のアトリエ」
会議次第	I 報告事項 1 会議録について 2 杉並区立図書館協議会委員の推薦について II 協議事項 1 社会教育関係団体への補助金支出について 2 第17期のまとめについて
（意見要旨）	
<p>○生涯学習担当部長 本日は、この17期の社会教育委員の会議の最終の会ということになります。この間、大変真摯にご議論いただき、ありがとうございました。今期をもって、ご退任される委員の方々に、この場をお借りして、改めて厚くお礼申し上げます。</p> <p>本日の議題としては、社会教育法に基づきまして社会教育委員に意見聴取が義務づけられている社会教育関係団体の補助金交付について、また、視察を含め、議論を深めていただけてきた「社会教育士の育成・活用」についてとなっています。とりわけ「社会教育士の育成・活用」のまとめは、この間の議論の到達点ということで、区の具体的な取組を方向付けていくこととなります。これについては、区の計画改定の中で、きちんと位置付けていきたいと考えています。</p>	

最後まで忌憚のないご意見をいただければと思います。

- 議 長 それでは、議事に入るが、報告事項の前に社会教育関係団体への補助金支出ということで、まずこちらから協議する。事務局から説明願う。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 補助金交付資料の説明
- 議 長 全体を通して、あるいは個別の団体の活動状況や予算など何かご質問等々あれば、ここでいただきたい。
- 委 員 中学校PTA協議会は繰越金があるという理由で減額されているが、その後の話として、繰越しが精算され、やはり足りないとなったら、増額することも可能性としてあるのかどうか。
- 教育連携担当係長 コロナ禍で活動が中止になったり規模を小さくしたりしたことで、この数年で少しずつ繰越しが増えていました。令和4年度はデジタル化によって今のPTAの負担感を少しクリアにできないか、デジタル化を検討するための予算と、報道等で逆風のところもあるPTA活動の良さを広く会員に分かってもらおうと、大きな事業をやる予算を確保していましたが、それも結局コロナの影響で見通しが立たずできなかったため、繰越額が大きくなってしまい、補助金を区に返還しています。令和5年度については、この間の繰越しで団体の予算があるため、減額をして申請したいということで、このようになっています。
- 委 員 今どうこう言う話ではないが、個人的には、また新たなかたちで予算が必要となれば、活動に対して計上できるような余地があるといいと思った。
- 議 長 つまり、令和6年度とか7年度とかにどうも足りなさそうだと感じたときに、補助金の額が増える可能性はあるのかということだと思うが、それはそのときになってみなくては分からない。そのときは、是非そのようにしていただきたいということだと思う。
- 委 員 小学校PTA連合協議会について、令和6年度の教育予算要望書草案の中に情緒不安定学級についての要望と書いてあるが、どういう学級なのか、要望の具体的な内容とその背景について教えてほしい。
- 教育連携担当係長 小学校PTA連合協議会の教育予算要望の中の一つの項目として使った用語で、公的なものではありません。問題のある行動をとる児童のための適切なケアを進める一案として、そのようなものを考えていただけないだろうかという趣旨の要望でした。
- 議 長 他にどうか。よければ、全般的かつ団体ごとでも、基本的には問題はないとしていいか。（了承）
- 議 長 では、今期検討内容のまとめということで協議したい。原案に前回のご意見を踏まえて加筆修正し、今日の案文にしている。第17期杉並区社会教育委員の会議のまとめとして、メインタイトルを「一人ひとりが自分らしく生きられる杉並を目指して」、サブタイトルを「一学び合いをささえる社会教育士の意義と役割」にした。（以下案文読み上げ）
- 委 員 社会教育士は一般的に理解が難しいが、その称号を持った人たちが地域のあちこちにいるような、あちこちで生まれてくるような話だと受け止めた。
- 議 長 社会教育士は機能的な部分や作用的な部分が強調されるので、コーディネーションやファシリテーションができる人が活動を進めていくようなかたちになっている。結局、称号と資格の違いがあって、社会教育士は称号でジョブ（職業）に結びつかない。何かのプロというものが無いから職にならないわけだが、その人が少しでも能力を向上させることができれば、本人にとっても地域にとってもプラスになる。

- 委員 今まで教育行政の中には社会教育主事というポジションが置かれていたが、社会教育士がいろいろな領域を橋渡しして、住民の学びを有効にしていければいいと思っている。
- 委員 スペシャリストは、今後AIに取って替わられていくと思う。人と人をつなぐコーディネートは多分人間にしかできないことで、コミュニケーション力、ファシリテーション力があつたらいいと捉えられてきたものが、これからはそれが無いと人間として仕事ができないという時代に入っていくのではないだろうか。このまとめは、その先駆けとして、コーディネート力というものの大切さを提言している。ただ、具体的に何をするのが想像しにくいので、道筋が見えるともっと分かりやすくなると思う。
- 委員 社会教育という言葉はなかなか理解されない。最初の壁をどうやって破るかが私にとっては一番の課題である。そう考えると、「4. 杉並の社会教育の発展のために」の(2)の「学校をみんなの学び場として活用～身近な公共空間としての学校」で学校教育と社会教育をつなぐというのが、キーワードではないか。学校教育はみんな分かったつもりでいるが、社会教育はほとんどの人は分かったつもりになってくれない。このまとめに書かれていることが少しでも実行されれば、本当の意味のコミュニティ・スクールに近づいていくと思う。
- また、資格は持っていないなくても、活動している人たちが自信を持って社会教育を推進していると思えば、本当の意味で社会教育が進むのではないか。
- 委員 行政の持つ目的的部分と本来目的に縛られない学びの自由さ、ある意味、社会教育の本来的自由さを、何かしら橋渡しして、社会教育士という新しくできた社会制度をどう活用するのか挑戦するのはいいと思う。
- 議長 制度化されないと国家資格はできないが、制度化すると目的設定が必ず入る。社会教育士は制度的ではなくて、機能的、作用的な営みだからこそ活動の有り様が着目されている。行政職員や教員にもその称号を取ってもらい、杉並区の行政で活躍してもらおうというのが本当は一番望ましいと思っている。
- 生涯学習担当部長 区の協働行政というのは、今までの失敗も踏まえながら新しい展開が必要です。その背景になるものが、議長の総論的なところで書かれている少子化や超高齢社会といったことであり、協働を進化させていくということが大事です。
- 社会教育士の役割を協働の文脈の中で見ていくと、社会教育士が区民と区の協働という枠組の中で、それがしっかりと機能していくトリガーになっていくだろうと思います。文案の中で「社会教育士を支える行政」というフレーズがありましたが、最終的には区や区民を支える社会教育士という存在に至ることがあるべき方向性であると考えています。このような認識のもと、今後の展開を見据え、取り組んでいきたいと思っています。
- 委員 2040年には、家の中に居ながら、いろいろな居場所にアクセスしていくようになるのではないか。今後、そうやって協働していくというものも出てきたときに、社会教育としてどう考えていくかも、これからの議論になってくるのではないか。
- 議長 社会教育委員の会議のまとめとしては、十分な議論を尽くしていないことを書くことはできないが今後の課題であることは間違いない。
- 委員 私はむしろAIを活用した社会教育士のようなものができるのではないかと思う。コーディネートする人も人間としての感情がある。AIの場合、客観的な情報だけでグルーピングするため、齟齬がない集まりができるのではないか。

- 議長 議論はこの辺までにさせていただく。追加等があれば、今月末を目途に事務局まで知らせてほしい。意見を踏まえ、修正する。（了承）
- 議長 では、今期で退任される委員から最後に一言ずついただきたい。
- 委員 この会議は自分にとって深い学びの場になっていた。どの意見も貴重で、それが積み重なることで議論が膨らんでいく有様を感じられたことがとても有意義だった。杉並区の社会教育の土壌が培われてきたということを実感していると感じた。今後も杉並の社会教育を応援したいと思っている。
- 委員 社会教育委員の会議が開かれているということを知っていたわけではなく、委員になって1年目でもあったので、まだまだこれからという感がある。社会教育士の活用も大事だが、社会教育士のような活動をしている方が大勢いるので、そうした方々を社会教育士と行政がつないで、今後さらに杉並区の社会教育が発展していくように願っている。
- 委員 学校現場には社会教育という言葉にピンとこない者がたくさんいる。現場にいながら発信できていないのはいけないと思い、学校関係者を集めて社会教育について学ぶ機会をつくった。今後も学校現場と社会教育の橋渡しになっていけたらいいなと思う。
- 議長 それでは、最後に、課長から挨拶をいただきたい。
- 生涯学習推進課長 本日は、大変貴重な意見をいただき、また、2年間のまとめも素晴らしいものを作っていただき、ありがとうございました。  
退任される皆様については、社会教育委員を務めていただき感謝しています。退任後もサポーターでいていただけたらと思うので、引き続きよろしく願いいたします。
- 議長 では、第17期は今回で最終回になるが、第6回社会教育委員の会議を閉会する。